

北播磨総合医療センター改革プラン
令和2年度実施状況の点検・評価報告書

令和3年7月

北播磨総合医療センター改革プラン評価委員会(以下「評価委員会」という。)は、北播磨総合医療センター改革プラン(以下「改革プラン」という。)の令和2年度実施状況の点検・評価を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1 評価方法

改革プランの各項目の実施状況について、北播磨総合医療センターから提出された改革プランの実施状況及び自己評価を検証し、評価委員会の総意を取りまとめる形で、点検・評価とした。

2 評価委員会

委員長	明石 純	関西学院大学大学院経営戦略科教授	学識経験者
副委員長	堀井弘幸	三木市医師会長	医療関係者
副委員長	西山敬吾	小野市加東市医師会長	医療関係者
委員	小田美紀子	コウダイケアサービス株式会社 執行役員 (元兵庫県看護協会専務理事)	医療関係者
委員	阿南 徹	前済生会兵庫県病院事務部参事 (三木市在住)	市民代表
委員	土井嘉彦	公認会計士 (元企業団監査委員：小野市在住)	市民代表

3 点検・評価

(1) 総評

改革プラン実施状況の点検・評価について、評価基準を(2)のとおり定め、評価項目について、委員会で諮った結果、(3)及び(4)のとおりとなった。

なお、一部の項目において、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した評価を行っている。

コロナ禍の中で計画に達していないところもあるが、地域の急性期医療を担い、医療機能の向上に努めているところは大いに評価できる。今後、アフターコロナを見据え、発生する諸課題の解決に取り組み、引き続き、地域の

基幹病院として高度な医療供給体制の充実に努められたい。

(2) 評価基準

評価	評価の基準
S	特によくできた（全国的に模範とされるような成果）
A	よくできた（プランの数値を大幅に上回っている）
B	概ねできた（プランの数値をほぼ達成している）
C	あまりできていない・できていない（プランの数値に未達）
—	評価不可

(3) 評価項目

	S	A	B	C	—
1 医療機能の再編による医療供給体制の充実	0	0	2	1	0
2 地域包括ケアシステムの構築に係る地域医療連携の推進	0	0	2	0	1
3 医療従事者の育成と確保	0	3	2	1	0
4 経営効率化	0	1	3	3	0
5 経営の安定性	0	0	0	4	0

(4) 各項目の評価

< 1 医療機能の再編による医療供給体制の充実 >

病床機能、病棟稼働の計画について、救急病棟及び人間ドックのフル稼働を計画していたが、未達成のためCとする。

医療機能・医療品質の確保について、小児救急患者数は新型コロナウイルス感染症の影響で前年度実績及び計画を大きく下回った一方、救急搬送件数及び全身麻酔件数は計画を上回っており、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しBとする。

先端医療の推進について、新型コロナウイルス感染症の影響による症例減等を考慮しBとする。

< 2 地域包括ケアシステムの構築に係る地域医療連携の推進 >

地域医療連携の推進について、紹介率及び逆紹介率は計画を上回っているが、講演会等の開催回数は前年度実績及び計画を下回っていることから、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮してBとする。

入退院支援サポートの推進について、退院調整研修修了者数で計画を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で研修自体が開催できなかったことを考慮しBとする。

かかりつけ医制度の推進について、新型コロナウイルス感染症の影響で病院フェスタが中止となりアンケートを実施できなかったことから、評価不可とする。

< 3 医療従事者の育成と確保 >

実習生の受入について、新型コロナウイルス感染症の影響で患者と接することの多い看護部門の実習を全面的に中止としているが、その他の部門については可能な範囲で実施していることからBとする。

医師の確保について、計画を達成しておりAとする。放射線治療科医を確保するなど常勤医師を大幅に増員し、専攻医及び研修医の確保も順調である。

医療技術員の確保について、計画を達成しておりAとする。増員が生産性と医療機能の向上に寄与していると認められる。

看護師の確保について、前年度実績及び計画を下回っておりCとする。新人職員等の離職率低減に努められたい。

事務職員の確保について、入院計算の直営化による増員等により前年度実績及び計画を大きく上回っておりAとする。

プロパー管理事務職員の確保について、計画を達成しておりBとする。

< 4 経営効率化 >

収支改善について、前年度実績及び計画を下回っておりCとする。

患者数の確保について、新型コロナウイルス感染症の影響で1日平均入院患者数は前年度実績及び計画を下回っているが、1日平均外来患者数は計画を上回っておりBとする。病床利用率は前年度実績及び計画を下回っているものの、コロナ禍の中で様々な工夫をすることで地域の基幹病院としての役割を果たしている。

診療単価の向上について、入院単価、外来単価は前年度実績及び計画を上回っておりAとする。

職員給与費について、対診療収入比率が計画を下回っておりCとする。

材料費について、対診療収入比率は計画を下回っているが、医療機能向上への寄与が見られることからBとする。

委託料について、新型コロナウイルス感染症関連以外の要因により前年

度実績及び計画を下回っておりCとする。

経費について、前年度実績と同水準に抑制しつつ計画を上回っておりBとする。

< 5 経営の安定性 >

組織運営について、計画を下回っておりCとする。

請求業務の改善について、計画を下回っておりCとする。

滞納整理について、現年度未収（滞納）額は前年度実績より増加しておりCとする。引き続き、新たな患者未収金の発生防止に努められたい。

内部留保資金について、前年度実績及び計画を下回っておりCとする。